

ナラセモチ

【牛久市史 民俗】より



▶小川芋銭「田家四季草画」(明治44年)より(牛久市所蔵)

1月14日に新年最初の餅をつき、ナラヤク又ギなどの枝に丸めてつけ、飾ったものをナラセモチといいます。五穀豊穡を祈願する年中行事で、市内の各地区で行われていました。多くの地域では、飾った後二十日の風に合わせるな」と言われ、19日には片付け、餅は焼いて食べました。



牛久市周辺の年中行事を主題にした小川芋銭作「田家四季草画」には、写真と同様ひっくり返した木の白を台にしたナラセモチが描かれています。



明治・大正・昭和の「昔のうしく」の写真を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課 ☎内線2524

第13回

アカマツ

樹形：刈谷1丁目にある公園林
平成23年8月24日撮影



球果：城中町斜面林
平成15年11月29日撮影

裸子植物マツ科マツ属。北海道南部〜屋久島に分布する常緑針葉樹の高木。全県域に分布しますが、松枯病で近年激減。市内では斜面林・ゴルフ場などに自生するほか、公園に植栽されています。樹皮は赤灰色で鱗片は亀甲状にはがれます。4〜5月

に新枝の基部に黄色の雄花がつき、先端には紅紫色の雌花が2〜3個つきます。球果(松かさ)は翌年秋に円錐状卵形になって熟します。松かさの間にできた種子には翼がありクルクルと落下します。材は土木等に利用されます。また、正月の門松や松飾りは縁起物として欠かせません。和名は樹皮の色に由来します。
※牛久の里山樹木ハンドブック73ページに掲載。本に関するお問い合わせは牛久自然観察の森(874・6600)まで。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会 樹木リサーチ(文章：秋山侃、写真：渡辺泰)

文芸さろん | 睦月 |

近頃は自然にしぐさ母に似て
みちのくや鳴きとぶ白鳥遊ぶ大空
区民と楽しく過すバス旅行
湯どうふにめがねくもらせ煮立つ音
たそがれに夫婦からすが宿さがし
静寂な青き苔蒸す境内の
けやきの落葉掃き清めたる
紅白の鶴飛ぶさまにさえざえと

デンマークカクタス咲き出でにけり

山崎さん
岡村さん
月田さん
赤鬼の娘
小山さん
匿名希望
草葉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX: 873-2512
E-mail: shimin@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号、匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)